

第4回

「武蔵国の古代を知る－国府・国分寺・東山道武蔵路－」

平成12年（2000）

武蔵国の中心・多摩は、古代の行政（国府）、信仰（国分寺）、交通（東山道武蔵路）がまとまって考古学から解明されてきた地域です。この講座では武蔵国の古代を、最新の発掘成果も交え理解する講座として行われました。

- | | | | |
|------|-----------|---|----|
| □第1講 | 6月25日(日) | 国府・国分寺・東山道武蔵路とは？ | 36 |
| | | 講師 坂詰 秀一（立正大学学長）
坂詰 秀一「武蔵国の古代」その後の状況 | |
| □第2講 | 7月30日(日) | 古代の武蔵国府にふれる | 38 |
| | | （同時見学：国府出土名品50選展示）
講師 江口 桂（府中市教育委員会）
深澤 靖幸（府中市郷土の森博物館学芸員） | |
| □第3講 | 8月27日(木) | 東山道武蔵路と官道 | 40 |
| | | 講師 早川 泉
（大成エンジニアリング埋蔵文化財調査室長） | |
| □第4講 | 9月17日(日) | 大規模な信仰の中心・武蔵国分寺 | 42 |
| | | 講師 福田 信夫（国分寺市教育委員会）
福田 信夫「武蔵国分寺史跡整備事業のその後」 | |
| □第5講 | 10月29日(日) | 見学会：武蔵国分寺・東山道武蔵路を歩く | 44 |
| | | 講師 福田 信夫 | |

定員 70名

場所 多摩交流センター（第2講は府中市郷土の森博物館、第5講は現地見学会）



この講座をもとに『多摩のあゆみ』第103号特集「国府・国分寺・東山道」がたましん地域文化財団から刊行されております。

第1講 国府・国分寺・東山道武蔵路とは？

坂詰 秀一（立正大学学長）

武蔵国に関する古代略年表

西暦	年号	武蔵国・東国に関する事項
471		埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣に「乎獲居臣」の記した銘が見られる
534		武蔵国造笠原使主が同族の小杵と国造の地位を争う（日本書紀の伝承）
645	大化	元 東国国司が発遣される
666	(天智)	5 百済の男女2000余人が東国に移される
703	大宝	3 従五位下武蔵権守引田朝臣祖父武蔵国司仕官（武蔵国司初見）
708	和銅	元 武蔵国から自然銅が貢進され、年号が「和銅」と改められる
716	霊龜	2 駿河など七国の高句麗人1700余人が武蔵国に移され、高麗郡が置かれる
719	養老	3 按察使が置かれ、武蔵国守多治比県守が相模・上野・下野三国を管する
757	天平宝宇	元 東国防人の派遣が停止される
758	天平宝宇	2 武蔵国に新羅郡が置かれる（のちの新座郡）
764	天平宝宇	8 恵美押勝の乱の鎮圧に武蔵国入間郡の人物部（入間）広成が活躍する
768	神護景雲	2 武蔵国乗瀨・豊島二駅に馬10疋が配置される
771	宝龜	2 武蔵国が東海道の所属となる
788	延暦	7 坂東などの諸国に歩兵・騎兵52800余人の徴発が命じられる
818	弘仁	9 武蔵など六国に地震
833	天長	10 武蔵国多磨・入間郡の境に悲田処を置く
835	承和	3 石瀬川・住田川の渡船の数を増す。武蔵国分寺の塔が神火により焼失する
839	承和	6 相模・武蔵等関東七国（国分寺）に一切経一部を写させる
845	承和	12 武蔵国男衾郡大領外従八位上壬生吉志福正、焼失の国分寺の塔を再建
847	承和	14 武蔵国中院の僧最安、一切経を書写（法隆寺蔵大菩薩蔵経卷十三奥書）
853	仁寿	3 武蔵・信濃両国（国分寺）に一切経一部を写させる
861	貞観	3 治安の悪化により武蔵国の郡ごとに検非違使を置く
878	元慶	2 関東地方に地震があり、相模・武蔵二国に大きな被害をもたらす
919	延喜	19 前権介源仕、武蔵国府を襲撃
939	天慶	2 平将門の乱。将門、武蔵・相模国を巡検し印鑑を収める
1023	治安	3 武蔵国分寺を修造する
1030	長元	3 平忠常の乱
1192	建久	3 源頼朝、鎌倉に幕府を開く
1333	元弘	3 鎌倉幕府滅亡。分倍河原の合戦で武蔵国分寺焼失（医王山縁起）
1335	建武	2 新田義貞の寄進により武蔵国分寺薬師堂再建される

"武蔵国の古代" その後の状況

坂詰 秀一（立正大学名誉教授）

平成12年6月25日に開催された第4回歴史講座「武蔵国の古代を知る—国府・国分寺・東山道—」以降、武蔵国の古代史を考える上に重要な考古学的発見が相次いだ。

それは(1)重要遺跡の発見、(2)関連シンポジウムの開催とその記録集の発刊であり、また、私自身も(3)近況の紹介を試みる講演を行った。

(1)平成15年から16年にかけて、府中市の「武蔵府中熊野神社古墳」が上円下方墳であることが確認された。7世紀の中頃以降かと想定される上円下方墳の発見は、武蔵国の国庁が府中市域に設置される前段階の歴史的背景を考えると、きわめて重大な資料の発見として捉えられたのである。その頃、国分寺市においては、武蔵国分寺跡の「塔(I)西方に塔形(II)遺構の存在が確認」され、塔の再建に関する検討上、重要な発見となった。他方、尼寺跡が「国分寺市歴史公園武蔵国分尼寺跡」として開園された。僧寺跡の塔の問題は、僧寺跡の史跡公園の整備にあたり等閑視することの出来ないものとして緊急な発掘が実施され、塔(I)跡と同規模の塔形(II)遺構の存在が明らかにされた。

このような新知見は、さらに続いた。平成17年には、従来、分明でなかった武蔵国の「国庁跡」が、大国魂神社の東方、宮之咩神社の東側に接して存在することが確認された。すでに知られてきた「東山道武蔵路の検出」「武蔵国分寺参道口の発見」ともども、武蔵国の古代史を考えるうえに重要な遺跡の発見が続いたのである。

(2)それらの状況を踏まえて、国分寺市と府中市でそれぞれシンポジウムが開催され、以上の新知見を盛り込んだ討議が展開された。平成15年8月、国分寺市が尼寺跡公園の開園を記念して開催した「武蔵国分寺を語る」、平成17年2月、府中市が市制60周年を記念して開催した「ここまでわかった武蔵国府」である。この2つのシンポジウムは、いずれも最新の関連遺構発見を踏まえての開催であったため、武蔵国の古代史研究に考古学的所見が注目されるにいたった。2つのシンポジウムについては、府中市と国分寺市の教育委員会の共編として『古代武蔵の国府・国分寺を掘る』（平成18年2月、学生社）が刊行され、広く共有されることになった。

(3)私も、新聞発表の記事の紹介を主とした講演「武蔵野の古代を掘る」（平成16年9月4日）を担当した。その要旨は『武蔵野』81-1、特集・古代の武蔵野に掲載されている。

武蔵国の古代史像は考古学的知見を活用するとき豊かになることは明らかであり、その意味で第4回の講座はアップトゥデートな試みであったと言えよう。

第2講 古代の武蔵国府にふれる

江口 桂（府中市教育委員会）

深澤 靖幸（府中市郷土の森博物館学芸員）

1 はじめに

*府中市

- ・奈良・平安時代、武蔵国を治める地方行政組織＝「国府」がおかれた。
- ・昭和50年8月の府中市遺跡調査会発足以降、1100箇所にあつた発掘調査が実施、全国的にも貴重な国府跡の発掘調査成果が明らかとなつてきた。

2 京司地区（国衙）の様相

①京司地区の特質

- *ほぼ真東西、真南北に主軸を置く大型の掘立柱建物跡と礎石建物跡
- *竪穴建物跡は全てこれら建物跡に先行
- *建物群の周囲に逆コ字状に巡る大溝。北辺西寄りでも跡が発見。築地塀を伴った区画施設か。
- *多量の瓦・埴が出土し、瓦葺建物や埴敷基壇建物の存在
- *武蔵国21郡中19郡の郡名瓦・埴が確認
→国衙施設の建設が武蔵国分寺同様、国内各郡の協力体制の元行われた。

②国衙（京司地区西側）

- *大溝によって囲まれた建物群には、建替えを重ねるものが多く、建物配置の踏襲性が高い。
- *創設時期＝竪穴建物跡との重複関係から8世紀前葉と判断される。（瓦葺きではない）
- *大規模整備期＝国分寺創建期。国内各

郡の協力体制の下に行われた。（建物の瓦葺・礎石化、埴積基壇建物の採用）

*改修期＝国分寺塔再建期。同時期の瓦少量出土。

*変質期＝10世紀後半。（土器の増加・埴が竈構築材へ流出）

③郡名寺院（京所地区東側）

*群名瓦・埴は出土しない。

*「多寺」銘・「□磨寺（多磨寺?）」銘平瓦の存在

*塔心礎状大石の存在、掘り込み地業による基壇跡発見

*創設時期＝7世紀末～8世紀初頭に遡る?

*大規模整備期＝国分寺創建期。それ以降は不明

3 武蔵国府の様相

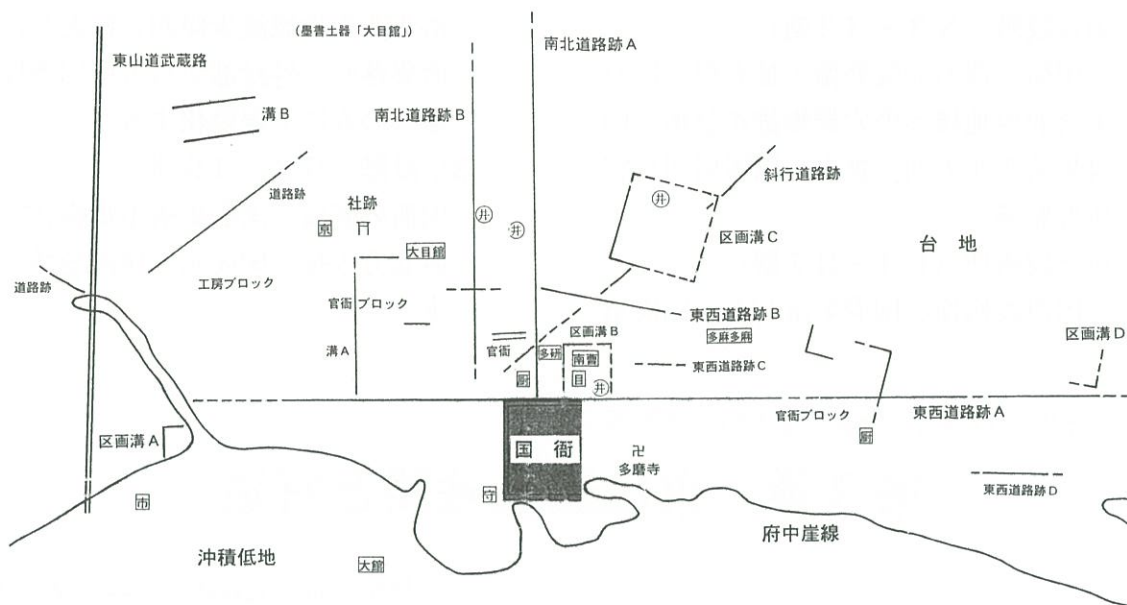
国府街並の形成過程＝国府全域に及ぶ画一的な計画が実行されたのではなく、地域差がある。

国衙東側＝東へ6°振れた遺構

→自然地形（府中崖線）という地形上の制約から古来の振り角が踏襲された地域

国衙西側＝ほぼ真北を意識した（国衙域と同じ）遺構が多い。

→本格的な国衙整備期以降、計画的な街並形成の実施に伴い、新たに整備された地域



武蔵国府の様相

4 国府北西隅に位置するお社跡について

- ①掘立柱建物跡が小規模。頻繁な人の出入りや倉庫等加重に耐える構造ではない。
- ②二重の溝の範囲内には、竪穴建物跡など他の遺構が確認されない。また建物周辺及び溝の中から、土器などの「出土量がきわめて少ない…日常空間から隔てられた神聖な場所
- ③社跡が国府の北西隅附近に位置…国府の守り神を祀る社であり、国庁の位置を確定し得る有力な根拠。
- ④社跡が武蔵国分僧寺の中軸線延長線と、七重塔を通る中軸線と平行した線の延長ライン中間地点に位置…国府域の設定だけでなく、国分寺の位置を決定する上でも重視→国府と国分寺の密接な関連性

5 竪穴建物跡から見た国府の変遷

* 国府に暮らした人々

国司、国学の国博士や学生・医生等、国師、^{ようてい} 徭丁など正規職員だけでも、武蔵国府の場合は、800人以上の役人がいたと考えられる。

* 竪穴建物跡

これまで約4000軒近く発見され、最盛期の居住人口は数千人？

機能 = 住宅、工房(鍛冶・土器・修理等)、飯場(国衙造営など)、宿舎(雑徭等)。
→居住施設だけでなく、国府の拡充に伴い、武蔵国内から様々な人々が徴集され、竪穴建物に居住した。

第i段階 (N1期以前)

府中崖線沿いの国衙北方近接・国府西側・東山道武蔵路周辺・国衙東側一帯地域のみを展開した古墳時代以来の自然集落

第ii段階 (N1期)

郡名寺院建立と、国府集落の萌芽。国衙北近傍地域など突如として竪穴建物跡が出現増加。居住域の拡大と小地域の集合体としての国府集落の萌芽

第iii段階 (N2期)

国衙と国府集落の成立。国府集落北方・国府集落北西両地域への飛躍的な拡大。各地域性が顕著となり、外縁部へと拡大傾向。「国府集落成立期」

第iv段階（N3～H3期）

国衙・郡名寺院整備・拡充期。国府集落北西地域へ竪穴建物跡が急増。国府集落北西方向へ拡大。国衙周辺は官衙群整備。

第v段階期（H4～H7期）

国衙改修期。国府集落北方・国府集

落北西両地域減少傾向。拡大した国衙集落が、外縁部から再度国衙周辺地域のみに小規模化する。

第vi段階（H8・H9期）

国衙の変質と国府集落小規模化。国衙北方近接・国衙北近傍両地域へ減少

平成12年8月27日 午後1時30分～3時30分

第3講 東山道武蔵路と官道

早川 泉（大成エンジニアリング
埋蔵文化財調査室長）



武蔵国府・国分寺と東山道武蔵路

1 前史

* 縄文時代の道

三内丸山遺跡（青森県）：集落内の道
元屋敷遺跡（新潟県）：祭祀の道（黄金の道）

* 弥生時代

吉野ヶ里遺跡（佐賀県）：集落内の道

* 古墳時代

黒井峰遺跡（群馬県）：集落内の道

* 古代

山辺の道（奈良県）：集落を結ぶ道
斜向道路（奈良県）：太子道

2 古代の駅路

* 駅制の成立

30里（16キロ）毎に1駅

* 駅家…人馬の継立・宿と食の供給

駅長・駅子・駅田・駅鈴・伝符

* 播磨国布勢駅（兵庫県龍野市小犬丸遺跡）

* 播磨国野磨駅（兵庫県赤穂郡上郡町落地遺跡）

* 五畿七道

大路	山陽道	20疋
中路	東山道・東海道	10疋
小路	西海道・山陰道・南海道 北陸道	5疋

* 五畿七道の成立 天武朝（7世紀後半）

国境確定事業 伊勢王一行
壬申の乱

3 東山道武蔵路

* 武蔵路の発見 武蔵国分寺跡SF1道路

- ・溝芯々距離12mの直線道路
- ・土坑連結式の側溝
- ・三層に分かれる埋土
- ・四時期変遷の道路

…国分寺市西国分寺地区の調査

* 万葉集東歌

「いりまじの大家がはらのいわいづら
引かばぬるぬるわになたえそね」

* 悲田処の成立とその後

* 中世鎌倉街道への移行

4 東山道本道と武蔵路

* 上野国の様相

牛堀矢ノ原コース、国府コース

* 下野国の様相

形態の異なる側溝、北台遺跡・
杉村遺跡・上野遺跡

5 まとめ

武蔵路と本道、その違いが示す意味

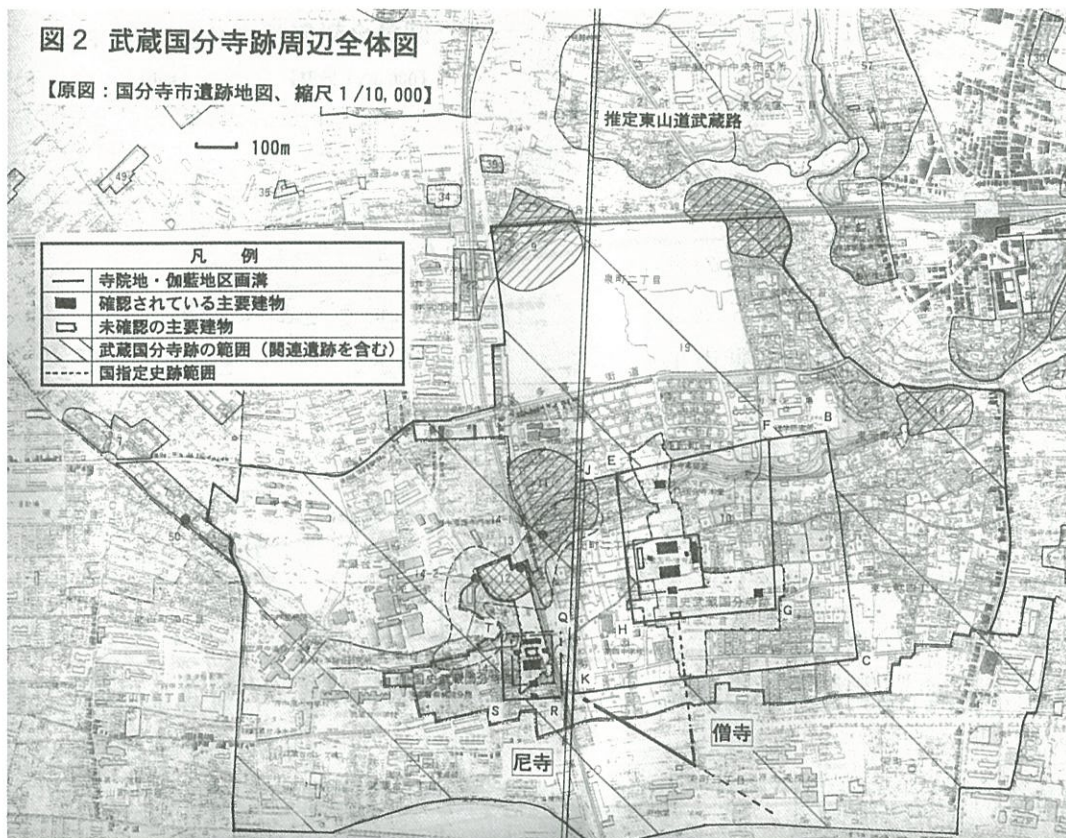


歩道に模様が残された東山道武蔵路の土溝（国分寺市泉町）

平成12年9月17日 午後1時30分～3時30分

第4講 大規模な信仰の中心・武蔵国分寺

福田 信夫（国分寺市教育委員会）



武蔵国分寺周辺全体図

武蔵国分寺史跡整備事業のその後

福田 信夫（国分寺市ふるさと文化財課）

その後、尼寺跡の史跡整備事業は順調に進み、平成15年春に、市立歴史公園武蔵国分尼寺跡が開園した。8月、開園記念として、坂詰秀一、佐藤信、藤井恵介の諸先生による講演会と星野信夫国分寺市長の司会によるシンポジウムを催したところ、市内外から多数の方が参加して盛況だった。この成果は、府中市教育委員会が前後して開いたシンポジウムとあわせて、同市と共同編集して『古代武蔵の国府・国分寺を掘る』として、学生社より平成18年2月に上梓された。

講座当時は未完であった東山道武蔵路の整備も、中央線に向かう谷地部分を盛り土保存した上に、両側溝と切通し部分の調査面をレプリカで表すなどの整備工事を行った。尼寺に続いて同じ年の7月に、市立歴史公園都史跡東山道武蔵路として開園した。

残るは、僧寺地区である。おかげさまで、地元のご理解とご協力で公有地化も進んでいる。しかしながら10haを超える歴史公園は、地域の居住環境に大きな影響をもつ。特に、史跡で分断される道路の問題がある。このため、史跡周辺地区のまちづくり計画を、文化庁、国土交通省、東京都などの行政の支援や、市民参加で作り上げた。今後の取り組みが問われており、都市計画部門などとの一層の庁内連携が大切だ。

僧寺の整備事業は、平成15年度から開始した。前年に既存の整備計画を見直し、新整備基本計画を定めた。20年計画で、発掘調査を進めて、金堂周辺の伽藍中枢部地区、南大門地区、塔地区、北方地区と順次進めて歴史公園としてオープンしていく。伽藍中枢地区では、中門と塀を実物大で復元する計画だ。

平成14年度に、埋もれている重要遺構がないか、僧寺全域に地中レーダー探査をかけたところ、塔跡西方の墓地付近で、同様の遺構を発見した。方形で深さ3mに及ぶ掘り込み地業版築と規模などから塔跡であることが判明している。その後の調査で、創建期でないことが確実となった。整備計画に大きな影響が想定されるので、慎重に調査を進めている。

もとより、史跡区域のため、整備に必要な情報を得るための最低限の調査にとどめているが、僧寺跡は、尼寺に比べ、地下遺構の残りも良く、古代から近世までの変遷が良く把握できる。上層から順に剥いでいくわけだが、どこで調査を終えるか、その判断は重要だ。

武蔵国分寺跡の全体像の究明には、まだまだ多くの時間と多くの方々の力を必要とする。多摩のこの地には、古代東山道武蔵路、武蔵国府、武蔵国分寺などが良好な状態で残されている。これらの一体的な調査、保存、活用が今後、ますます求められてくるだろう。

平成12年10月29日 午後1時～4時

第5講 見学会:武蔵国分寺・東山道武蔵路を歩く

福田 信夫 (国分寺市教育委員会)

第5講は見学会となりました。コースは下記です。

西国分寺駅→東山道武蔵路→薬師堂→北方建物跡（北院跡）→仁王門（市指定重宝）→万葉植物園（市指定天然記念物、国分寺境内）→国分寺市立文化財保存館（国分寺境内）→お鷹の道→真姿の池湧水群（全国名水百選、東京都指定名勝）→僧寺七重塔跡→僧寺南大門跡→僧寺中門跡→僧寺金堂跡・講堂跡・鐘楼跡・僧坊跡→国分寺市文化財資料展示室（東京都指定文化財特別展示中）→尼寺金堂・中門跡→尼坊跡→伝鎌倉街道跡→伝祥応寺跡・塚→史跡通り→西国分寺駅



国分寺薬師堂前で解説



発掘調査中の武蔵国分寺



国分尼寺跡